

平成27年度 K排水路溢水に関する質問事項 (8月18日) ならびに回答

質問事項	回答	備考
1 なぜ、溢水しているのにポンプが全8台稼働しなかったのか。レベル計の設定は設計通りか。	今回の事象は、稼働しているポンプの排水量と流入量がほぼ釣り合い、堰の上端に近い高さで堰内水位が保持されたことに加えて、水面が波立ち後続ポンプの起動信号が安定して取得できなかったことなどにより発生したものと推定しております。なお、レベル計の設定につきましては、設計通りであることを確認しております。	申し入れ時の確認事項
2 K排水路の上流域で進められているフェーシング工事により、集水面積等が変更となり、当初設計したポンプで汲み上げられる降雨量14mm/hが変化しているのではないかと。変化しているのであれば、現状で耐えられる降雨量の具体的な数値は。また、ポンプの最大排水量と流域面積等の具体的な数値も示して欲しい。	ポンプで汲み上げられる降雨量の目安「14mm/h」につきましては、過去の構内降雨量とK排水路の流量の関係から試算した値です。今後、降雨量の目安について、降雨量と流量との関係を再確認したいと考えております。 また、ポンプの最大排出量については、約2000m ³ /h、流域面積は約30ヘクタールとなっております。	申し入れ時の確認事項
3 K排水路の上流域で進められている新設排水路の設置がK排水路に与える影響（K排水路へ流入する雨量が低減するのか）は。	新設排水路については、構内フェーシングにより増加した雨水排水を新設排水路で分担させ、物揚場水路とK排水路へ放流する計画ですが、K排水路付替工事が完了するまでの間は、物揚場水路のみへの放流とすることから、K排水路へ流入する雨水排水量は変わらないものと考えます。	申し入れ時の確認事項
4 排水ポンプ稼働に関するレベル計の設定値を低水位側に変更することは可能か。変更出来ない場合はその理由は。	ポンプを稼働させるレベル計は稼働に必要な最低水位から設定しているため、レベル計の設定値を全体的に低水位側に変更することはできません。一方、ポンプを稼働させるレベル計の間隔を現在よりも狭くすることについては、ポンプの起動と停止を繰り返す等、機器の動作において好ましくない状況が想定されることから、現在の水位設定のままよりポンプが安定して稼働するよう水位変動を見込んだ堰の改造を行う予定です。	
5 現在の堰の下流側にポンプを増設することは可能か。不可能な場合はその理由は。	現在の堰下流側へのポンプ増設につきましては、物理的なスペースの制約があります。また、堰を拡張し、その下流側にポンプを増設することにつきましても、現在施工中のK排水路付替ルートと干渉してしまうため、付替工程に影響を及ぼします。これらのことから、下流側へのポンプの増設は困難であると考えます。	
6 K排水路上流側に新たにポンプを増設することは可能か。不可能な場合はその理由は。	K排水路の上流側にポンプを増設することは可能ではありますが、増設設備の工事期間を想定すると増設の完了時期はK排水路の付替完了の目標時期とほぼ同時期になってしまうことから、付替工事に専念し注力してまいります。	
7 排水路付け替え及び排水路新設工事に関して、詳細工事工程の提示は可能か。（工事サブマスタースケジュールの提示とクリティカルパスの明示）	K排水路の付替工事ならびに排水路新設工事については、現在、安全最優先のもとトンネル工事ならびに配管敷設工事等を実施しているところであり、K排水路付替工事については平成28年3月末完了、排水路新設については平成27年12月末完了を目標に進めております。	
8 汚染源調査についてその後の経過は。また、汚染源毎の除染方策とその進捗状況及び完了時期（工程表）について、各汚染源毎に説明してほしい。	10m盤の屋根面及び周辺敷地の汚染源調査工程を作成して調査を継続実施しております。また、汚染源毎の工程については、現地調整会議においてご説明しております。次資料をご参照ください。 参考資料：「福島第一原子力発電所の敷地境界外に影響を与えるリスク総点検に関わる対応状況」8月25日現地調整会議 （※K排水路に関する項目の番号：1-1、1-2、6、16-2、16-3、26）	